

SSKU

お元気ですか?
イリアンソス
です。

2011



生活寮うみ・そらの合同クリスマス会



のぞみの家チャレンジ班の新年会

理事長の散歩道

ケースワークの道 ②

特集

「仕事、頑張ってます」

～各作業所の仕事～

「活動センターかなえの

歩みと請願書の行方」

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F兼)

umi@iriansos.or.jp

.jp

理事長の散歩道



ケースワークの道 ②

自分の感情を自覚して吟味する

社会福祉法人イリアンソス

理事長 山田耕一郎

街路樹のサツキやドウダンツツジも刈りそろえられた枝に春を待つ気配が漂い、空を仰ぐと桜の枝にもうつすらと赤みを帯びた花芽が準備されている。寒さに縮みながら春を待つ今日この頃である。

ところで、ケースワークの第三の原則に触れてみたい。

（第三原則）自分の感情を自覚して吟味する

コミュニケーションには、二つの性質がある。一つは「概念や知識だけのやりとり」、そしてもう一つは「感情を伝えあう」ことである。はじめの概念とか知識のやりとりは言葉によって成り立つ。しかし、後の感情を伝えあうのは言葉だけでなく人と人が発する信号を主として表情、身振り、心の底にある思いが響き合って伝わるのである。

足利市のこころみ学園ではワインを作っておられるが、ある時カリフォルニアの施設のワイン工場を訪ねることになった。職員は「英語が出来ない」まして、「利用者を連れて行くのに、どんな困難な事があるか」と一同不安が走った。しかし、当日になって現地に着い

た時には、利用者さんたちは「やあ！」「ハロー！」で通じてしまった。と、故人になられた川田昇園長先生が笑顔でお話しされたことを思い出す。

ところで、ケースワーカーがクライアント（心や生活の上で悩みをかかえている人）に對するとき、「感受性を持って、相手の感情を理解する。そして、援助するという目的を自分の中に意識しながら相手の感情を適切に反応すること」が必要とされている。

しかし、ケースワーカーでなくても人は何かあった時、子や妻や夫の感情を理解し助けようという明確な目的をもって、相手の感情に役立つという反応を示す。そこに、家族としての信頼と愛そして尊敬が生まれ絆が結ばれていく。このことを考えると、ケースワーカー（福祉従業者）は家族同様のレベルか、その上に行く信頼、愛、そして尊敬される対人援助の域に達していなければならない。その為にも、感受性と理解と反応という三つの要素が大切である。

感受する

利用者さんの話を聞く時「話し方のスピードが遅い。」「ためらいがちに話している。」「早口な話し方で話している。」などの様子が見られたら、何らかの感情を伝えていると気づくべきである。また、利用者さんを漠然と

見ているのではなくて、表情、姿勢、服装、手の動かし方等も感情を表現している。これらの糸口を手がかりする。

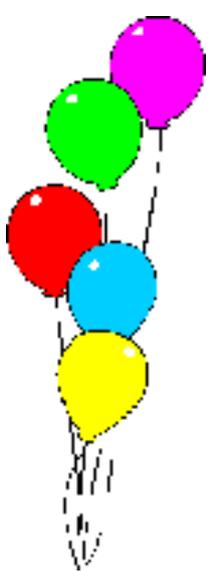
理解する

今の姿を見ているだけでは本当の理解はできない。これまでの生い立ちの中に、心の傷になっっていることがないか？手元に資料があれば生育史の中に何か隠れているものはないか？心を静めて、傾視して見る必要がある。そのことによって、今の状況の背景が見えてくる。そうすると、はじめて本人の示している感情を理解することができる。

反応する

実は、感受し、理解することはケースワーカーが利用者さんの感情表現に適切に反応するための手段である。その上に立って得た反応を行っていく。

いずれにしても、それぞれはきちんとワーカーの心を通したものでなければ効果がない。心を通していない、うわべだけのものは見抜かれてしまう。



特集

仕事、頑張っています

今回の特集は各作業所の仕事についてです。ひとつに仕事といってもその内容は様々で個性豊かです。

仲間との協力・地域の人たちとの交流・一人一人の表情の変化など毎日の仕事を通して見えてくるものがたくさんあります。

それぞれの作業所を代表して、のぞみ家の「たんぼぼ班」、かなえの「だるま班」、なかまの家の缶つぶしの様子を紹介します。

生き生きと楽しく働く姿と仕事に対する熱い思いが伝わってきます。

のぞみの家

たんぼぼ班

どんな班???

たんぼぼ班は「仲間と一緒に楽しく」「身体をたくさん使って元気に」活動していくことを軸としています。仲間がいるからこそ、安心して活動に参加することができたり、活動がより楽しいものになったり、自

分も頑張りたいと思えたり…。仲間の存在がみんなの前向きな姿を引き出しています。自分らしく、楽しく、前向きに活動していくために、健康な身体であることはとても重要です。健康な身体を維持し、生活リズムを整え、元気いっぱい活動していくために、身体を使って楽しむ時間を大切にしています。

どんな仕事???

牛乳パックの回収、牛乳パックを使っての和紙作りを年間を通して行っています。牛乳パックは、スーパ―、団地、保育園などに回収に行き、業者に卸しています。一ヶ月に200^キ、年間で2400^キ程を回収しています。暑くても寒くてもリュックを背負ってワゴンを押して、元気に歩いて回収に行っています。遅れてくる仲間を心配して後ろを振り返って待ったり、仲間からの頼まれごとを快く引き受けたり、仲間を思いやっている姿がたくさん見られます。また、回収道路途中の御近所さんのやり



ワゴンにパックを1枚1枚入れています

取りもあり、みなさんから温かい声をかけていただいています。牛乳パックから作った和紙を利用して、うちわ、スケジュール帳、ノートなどの自主製品を作って販売しています。みんなで話し合いをしたり、お客さんが使っているところをイメージしながら作っています。みんなで作った自主製品には、仲間ひとりひとりの個性が色やデザインで表現されています。年間で和紙約500枚分の自主製品

が売れています。

仕事以外の活動は??

毎週月曜日～木曜日は仕事に取り組み、金曜日はレクリエーションの日としています。調理(お団子、ピザ、ケーキ、お好み焼き、水羊羹…)、プール、小金井公園、イオンモール、ボーリング、ゲーム(風船バレー、しっぽ取り、サッカー…)や、季節に合わせた内容(風揚げ、節分、芋掘り、焼き芋、イチゴ狩り…)もあり盛りだくさんです。仕事の時とは違い、みんなで情熱的に盛り上がっています♪「レクを楽しみに仕事を頑張れる!」と言えるくらいの楽しいレクを行っています。

活動センターかなえ

だるま班

チラシ配りの仕事

だるま班では、今年の夏ごろより「チラシ配り」や「市報配り」の仕事に挑戦しています。今回は、その中でもYさんのチラシ配りの様子を紹介します。

朝の会が終わり、毎朝持っていくチラシ



笑顔でチラシ配りをしています

配りのカバンをもって「さあ、いきましょうか?」の声かけで、「よし、行くぞ!」とばかりに、さっと立ち上がるYさんです。施設の近所を中心に、歩いて配りに行きます。個人宅の郵便受けの前でチラシを「お願いします。」と渡すと、ぱっと郵便受けに入れます。毎日、雨の日は合羽を着て、寒い日はあたたかい格好をして、暑い日は水筒をもって、30分～40分程度、一軒一軒配り歩きます。

しかし、Yさんも、はじめからこの仕事をスムーズにこなせたわけではありません。Yさんが所属しているだるま班は、とてもぎやかな班です。にぎやかなところが苦手なYさんは、班の部屋にはいることができず、廊下に席を設けたりしていました。また、班活動の散歩など、外活動ではしゃがみこんでしまったりと、体を動かす機会も少なく、Yさんの要求も見えづらい状況でした。Yさんと寄り添える、Yさんの要求に耳を傾ける時間の保障、そして、便秘気味なYさんにとって体を動かす事の重要性、精神的な安定、ということから、毎日、30分でもいいから、スタツフと1対1で歩き続けてみようとして「チラシ配り」が始まったのです。

当初は、行くのを嫌がったり、「車で行く!」とばかりに車の横で怒ったり、出発したものの途中でしゃがみこんでしまったり…。しかし、毎日、行うことでYさんにも見通しがもてたこと、また、歩くことの充実感、季節を肌で感じる心地よさ、そんなものが、Yさんの今の姿につながっているとあります。

まだまだ、挑戦をはじめて半年ですが、苦手だった班の部屋にも、朝の会、お昼ご飯のときなど、すこしづつ、入ることができています。そして、なにより、「チラシ配

り」にでかけているYさんの空をみあげたときの笑顔が素敵です。
Yさんの笑顔といっしょに今日も「チラシ配り」にでかけます。

なかまの家

さくら班

楽しみながらそれぞれの役割を

なかまの家では、毎週金曜日に缶つぶしの仕事をしています。資源回収で集めたアルミ缶をつぶして、業者に買い取ってもらっています。つぶしたアルミ缶はアルミ製品として再利用されます。

回収したアルミ缶を、足踏み式の機械を使ってつぶしたり、自分の足でつぶしたり、電動缶つぶし機を使ってつぶします。缶つぶしの作業が始まると、とてもにぎやかで楽しい雰囲気になります。足で缶をつぶす音や、機械の音、中には「よーっ!」と気合を入れてる人もいます。中でも、電動缶つぶし機は利用者の中で人気があり、時々「僕がやる!」「私がやる!」と奪い合い?になる時もあります。電動缶つぶし機



楽しそうに缶をつぶす様子

の人気は、缶を入れるとつぶれた缶が自動で出てくるところです。音を楽しんだり、機械の動きをみて楽しむ利用者がいます。足踏み式の機械は、機械に缶を入れてペダルを踏むとつぶれた缶が出てきます。自分の足で缶をつぶす人達は自分のペースで、1つ1つ缶をつぶしていきます。

回収してくる缶の中には、スチール缶が混ざっていることもあります。そんな時は分別が得意な利用者が、手作業で分別をし

てます。プルタブやビンなども分別するので「すごいな」と感心します。

みんながつぶした缶は、ビニール袋へ入れます。この作業も得意な利用者がいます。みんながつぶした缶を手作業で1つ1つ袋へ入れていきます。1日大きなゴミ袋で5〜7袋分の缶を1日でつぶしてしまいます。そんな楽しい缶つぶしですが、大変なこともあります。それは、飲み残しの入った缶や、たばこの吸い殻が入った缶、夏になるとゴキブリが缶の中に入っていることも。そんな時も「ゴキブリだ!」なんて言いながら、楽しく作業をしています。(もちろんたばこの吸い殻やゴキブリは、スタッフと一緒に処分します)夏は暑くて大変、冬は寒くて大変だと思うのは職員の方で、利用者みんなは、夏も冬も缶つぶしを楽しみながら頑張っています。雨の降った日などは作業が出来ない時もあるけど、利用者みんなは缶つぶしを楽しみにしています。

頑張ってみなでつぶした缶は、業者の人が取りに来てお金を渡してくれます。そのお金はみんなの工賃(給料)になります。

活動センターかなえの 歩みと請願書の行方

さいわい福祉センターとの連携

活動センターかなえは、2002年の10月に開設しました。さいわい福祉センターに通っている障害のある人たちが、3年後に通える場所が東久留米市にないため、市行政の依頼を受け、市内にある障害者施設の代表者の方々の支援を得て活動が始まりました。さいわい福祉センターは、東久留米市の施設です。障害がある子供たちが学校を卒業して、地域で生活をするために様々な支援や社会とのかかわりを身に着けていくために、3年間所属し、障害のある人の地域生活を支援することが役割となっています。

使い勝手の悪い2階で

活動センターかなえは、旧い幼稚園の2階で活動しています。市行政から今の場所を使ってほしいと要望があり、当初は障害者の方々が通い活動するのに2階は難しいと断

ってきました。しかし、どうしてもほかに場所がないため、とにかく使ってもらって5年後には新しい場所を考えるからという担当部長に説得された形で受け入れることになりました。当時の東久留米市議会でも、「使い勝手の悪い2階で開所するより、本格的な施設をつくってはどうか」という意見もあり議論にもなりました。

市立わかくさ学園との共存

実際に、活動センターかなえが開所して障害のある人たちが通って活動を始めてみると、使い勝手が悪く、毎年毎年修繕や備品の購入などで、少しでも利用者の方たちに迷惑をかけるないように法人としても努力してきました。ところで、1階には乳幼児通園施設のわかくさ学園の発達相談室があります。そして、その発達相談には、乳幼児期のお子さんとその母親が訪問してきます。活動センターかな

えを開所するとき、わかくさ学園との約束で乳幼児と成人期の障害のある人たちの動線を分けることになりました。つまり、建物の2階に上がるには、中階段を使わず非常階段を利用することが前提となりました。しかし、鉄骨でできている非常階段については、利用者の足音が響くと近所からのクレームがあったり（現在は解消）、雨の日は滑ってしまうので、職員が介助して慎重に上り下りをしなければならなかったりと、かなり危険な状態が続いていました。

なかなか受け入れられない

活動センターかなえが開設して8年がたちました。これまで何とか事故もなく活動してきました。しかし、今大きく3つの問題が出てきています。一つは利用されている障害のある方たちの加齢に伴う重度化で、非常階段を上ることが難しくなっていること。もう一つは、新しく通所される利用者の方も足に障害があるため、できれば非常階段を利用したくないこと。3つ目は、活動センターかなえは定員が一杯にはなっていない。やはり、2階ということ躊躇されている方が多いためです。一方、さいわい福祉センターの卒後の行き場もない中、障害のある人の通う場所が市内ではなかなか見つかからない状況になっていることです。1階に活動拠点があれば

もつと多くの障害のある人を受け入れることが可能なのです。

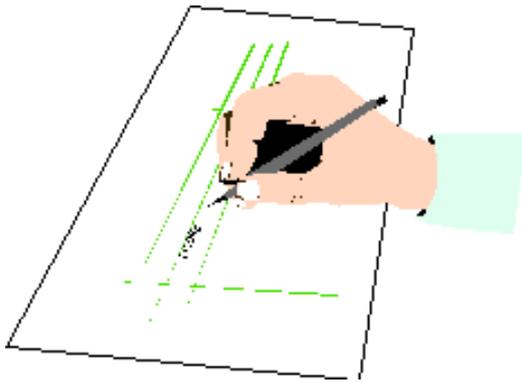
わたしたちの請願に議会も応援

今回12月に行われた市議会に法人として始めて請願書を出しました。「障害のある人が、安心して通えるよう施設の整備をしてください」の請願は、多くの方たちに署名をお願いし1884筆を集めることができました。議会でも全会派の議員が熱心に私たちの訴えに耳を傾けてくださり、本当にありがたいことでした。また、厚生委員会においては、時間をかけて丁寧に議論をしていただき、市行政に対し「改善に向けて歩みだす努力を」と訴えていただきました。採決の結果、「採択」ではなく「趣旨採択」となりましたが、「反対」への挙手はありませんでした。今回の署名に対し、ご協力していただいた市民の皆様にご心より感謝申し上げます。また、家族や利用者の方たちには市議会の傍聴もしていただき本当に一丸となって行った請願運動でした。

みんなが通える“かなえ”にしたい

今回の請願は、活動センターかなえの建物の建替えだけの問題ではなく、障害のある人たちの地域生活を守っていくために、もつと積極的に行政が動く責任があることを認識し

ていただきと考えています。法人も障害当事者、家族もみんな一人ひとりの人生を守っていくことを目指しています。障害福祉は決して家族が担っていくものではなく、社会が支えていく仕組みを作っていくかなければなりません。そのためには行政の支援は必ず必要です。市内の障害のある人たち、学齢期の子どもたちが安心して暮らしていける地域を築いていくために法人としても最大限努力します。署名をはじめ、たくさんの方々にご協力をいただきました。また、今後も更なるお力添えをお願いし、この紙面をもってお礼と報告とさせていただきます。



法人行事

くるてん

『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎日程… 3月17日(木) 31日(木)
4月14日(木) 20日(水)

◎場所… 滝山団地センター前広場

※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

『ポーナズバザー』

活動センターかなえ・なかまの家

◎日程… 3月3日(木) 29日(火)
4月6日(水) 19日(火)
5月10日(火) 18日(水)
6月2日(木) 16日(木)

◎場所… 滝山団地センター前広場

※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。ご了承ください。



ご寄付をいただきました。

(1月末日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。
いただいたご寄付は法人各施設の充実に、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

自由学園女子部卒業生会様

重松 茂雄様

島崎 宣治様

イトーヨーカ堂労働組合

ザ・プライス滝山店様

養護学校卒業後の生活を考える会様

本多 和秀様

磯部 光孝様

野島 貞夫様

増田 完彦様

山田 省史様

ありがとうございます。

編集後記

編集委員会から…

表紙を飾る作品を募集しています。

「ぜひ表紙を飾りたい」という方のご応募をお待ちしています！

《 発行 》

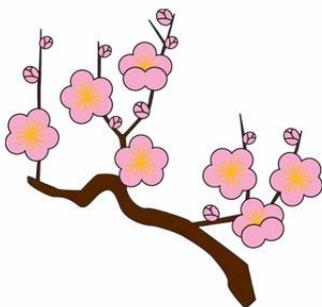
特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、
多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 100円

やつと冬号の広報誌が完成しました。小さい頃は長かった一年もあつという間に過ぎていってしまします。自分は成長していません。4月からはさらにスピードアップで忙しさを増してくるかと思いましたが、足元をよく見てゆ